



学校だより

# 伸びゆく子

令和元年10月31日  
横浜市立中沢小学校  
11月 号

## 温かなまなざしの先にあるものは

副校長 柴田 耕治

「小学校の廊下って、こんなに狭かったかな。」

10月18日（金）、中沢小と旭中の児童生徒交流日、本校を訪れた中学生が、両腕を広げてつぶやいていました。また、帰る前には別の中学生が、

「小学生は、しっかりしていると思いました。」

という感想を伝えてくれました。6年生の子どもたちはジェスチャーゲームの進行を計画に沿って行い、4年生の子どもたちは交流会の感想を堂々と話しました。そういう姿を中学生のお兄さんお姉さんたちは、温かな励ましの目で見てくれていたのです。



小学生は、「楽しかった。」と感じた子がたくさんいたことが、活動後の声から伝わってきました。

私はカメラを片手に教室を回っていたのですが、各教室で行われた交流会で、子どもたちは手をつないで輪を作り、息を合わせて体を動かしたり、自己紹介をし合ったりして過ごしていました。活動後、写真を見ながら、私は改めて気付きました。

6年生が下学年の子の背中に手を添えて、案内してあげています。中学生が小学生に優しく声を掛けられていることが、横顔から伝わります。優しく声を掛けられていた小学生が、さらに年下の子に優しく話しかけている写真もありました。

また、前に立って何かを伝えようとしている人のことを見つめている子どもたちの嬉しそうな表情。学年の壁を越えて、何だかとても仲が良さそうです。中にはまだちょっと緊張があるかもしれないけれど、中学生も小学生もお互いのことを大事にしている感じが伝わってくる後ろ姿もありました。

どの写真も安心感に包まれて、見ていてほっこりした気持ちになるのです。

「楽しかった。」とたくさんの人が感じたのは、なぜかと考えたとき、共に過ごす人が「お互いに優しい」「一緒にいて安心できる」ということが、「楽しい」と感じることの根っこにあるように思えました。

このような相手を思いやる気持ちが、「たてわり活動」を通して育ちつつあります。

さて、その「たてわり活動」では、いよいよ今川公園での全校遠足に取り組みます。子どもたちは班ごとに学校を出発し、安全を確保しながら目的地を目指します。体力の差が大きく、興味関心の対象も異なる子どもたちが一つにまとまってオリエンテーリングをする活動の中で、何事も起こらないはずがありません。子どもたちがお互いの話に耳を傾け相談し、問題を解決しようとするところに、さらなる成長が待っていると私たちは考えています。

また、今年度の全校遠足には、74名に上る保護者の方々がボランティアに応募してくださりました。ご協力に感謝申し上げます。運動会でも非常に多くのボランティアの皆様のおかげで、当初困難と思われていた校舎の開放など、いくつかの課題を乗り越えることができました。今回は、6年生を中心とした子ども主体の全校遠足となるような環境を整え、子どもたちがやり遂げた思いを持てるような全校遠足にするためにお力添えをいただけることになりました。私たちにとって、何よりも有り難く嬉しいことは、保護者や地域の方々と、子どもたちのありのままの姿を共に見届け、子どもたちの成長を共に喜び合える機会がもてるということです。このような支援のネットワークが広がりゆくことを願います。今後とも、どうぞよろしく願いいたします。